

酒造の伝統を身近に感じて

渡辺酒造店が恒例の「蔵まつり」開く



振る舞い酒を楽しむ来場者ら

古川町老之町の渡辺酒造店(渡邊久郎社長)が二十三、二十四両日、毎年恒例の「蓬莱 蔵まつり」を開いた。地元の人々への感謝の気持ちを込め、普段は関係者しか入れない酒蔵を公開し、市民や観光客らに日本酒をより身近に感じてもらうようと二

〇〇七年から始めたもので、今年で六回目。当日は、新酒の利き酒コンテストや米麴の試食、袋吊り酒や生にごり酒、甘酒などの振る舞い、大吟醸・酒粕入りのメロンパンの販売など酒蔵らしい各種イベントを企画。毎年人気の酒粕詰め放題

には大勢の人が詰めかけ、手渡された袋に目一杯押し込んだ酒粕の山を見て満足げだった。蔵まつりは二回目という宮川町の大江義弘さんは「酒粕詰め放題を楽しみに来ました。甘酒にしたり焼いて食べたりしようと思いつ」と話していた。

バンド演奏や、お笑い芸人による「ずっこけ体験教室」、バルーンアート教室、似顔絵コンテストなどもあり、訪れた人は楽しい時間を過ごした。

「イベントを増やしたり、酒粕詰め放題が盛り上がり、お客様は年々増えていきます」と同店の渡邊久憲専務(44)。「普段は見せない仕込み蔵を公開したり、普段は飲めないお酒

も準備しました。一人でも多くの方に飛驒の酒造りの伝統を体感してもらえたら」と話し、にぎわいを喜んでいました。